

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム いさわ (ほたる)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500303		
法人名	有限会社 アセットリンク		
事業所名	グループホーム いさわ (ほたる)		
所在地	〒023-0401 奥州市胆沢南都田字蛸の手443		
自己評価作成日	令和4年9月15日	評価結果市町村受理日	令和4年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりに合わせた暮らしで、のんびりと過ごそう。  
健康的な生活で、食事は楽しく。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年10月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、旧胆沢町の中心地域にある2ユニット(平屋)の事業所で、連携している医療機関からは、数分程度で駆けつけ可能な場所にある。開設当時からの理念「みんなと生きていく、みんなに生かされている、ともに支えあっていく、ともに支えられている」の実践を目指し、運営方針「目がとどき、手がとどき、心がとどく安心な暮らし」を基に、介護計画は丁寧に作成されている。職員は、毎朝のミニミーティングで共通認識を図り、質の高いサービスを提供している。3度の食事は手作り、栄養士を中心に郷土食、行事食等様々な工夫をこらし、毎日の楽しみに加え生活習慣病も改善されている。看取りの夜勤時には、複数の職員体制で対応し、家族へも最大限の支援を行い、感謝の言葉が寄せられている。毎月発行している「おれんじ通信」は、日常生活が分かる写真と解説付で、面会制限が続くなかで家族から好評を得ている。コロナ禍終息後、休止中の交流事業の再開と、2ユニット化による事業所力の一層の向上が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム いさわ (ほたる)

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議や委員会毎に理念の唱和を行っている。事業所内の目に付き易い所に掲示し、訪問者や地域の方々、利用者にも開示し、全職員の意識付けを行っている。	開設当時に作成した理念「みんなと生きていく、みんなに生かされている、ともに支えあっていく、ともに支えられている」を毎朝のミーティングと職員会議や各委員会時等に唱和している。職員は、理念、運営方針は自分達にはふさわしく、覚えやすいと実感しており、事務室や玄関先に掲示し共有できるようにしている。所長や管理者は、ユニット増設に伴って新規に採用した職員への浸透に心を砕いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防のため、直接的な交流は控えている。地域の方が理解してくれて、玄関席に季節の野菜等を置いてくれている事も在り、感謝していただいている。	日常的には、近隣の複数の農家や知人から季節毎に野菜の差入れが届いている。コロナ禍以前は、毎月東京から来て、オペラを披露して下さる方がいた。また、ボランティア「あいうえおの会」も毎月1回来所し、絵本の読み聞かせ、歌等を披露し、隣接の中学生の吹奏楽を演奏等、利用者の楽しみとなっていたが、現在は自粛している。事業所前の道路を挟んだ向かいの企業とは、4、5年前より交流が図られ、工場庭の散歩、社員食堂の利用等でご近所付き合いをさせていただいている。	コロナ禍の沈静後には、以前のように地域の方々やボランティアの方々との交流が再開できるよう期待します。また、地の利を生かし、隣接中学校との福祉体験を含めた交流活動を拡大されるよう希望します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の家族のいる相談者への支援は、まずお話をじっくり聴く事から始め、内容によっては事業所で使用している福祉用具(防水シート等)の現物を提示したり紙オムツの種類等、現物を知ることによって安心して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月の開催となっている。今年は県警奥州警察署南都田駐在所長さんに運営委員を委嘱し、一層の期待感で開催している。	昨年度は書面開催としていたが、今年度は厳重な感染対策により、両ユニットのホールで交互に開催している。今年度3回目の会議では、新たに地元駐在署長に委員を委嘱し、今後、ミニ講話や話題提供等の役割を期待している。事業所西隣の委員には、非常時駆け付け協力を快諾していただいている。開催日程は、各委員の都合を調整し会議終了時に決定している。今後、郵便局関係者の委員委嘱も視野に入れていきたい。	

事業所名 : グループホーム いさわ (ほたる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定の申請手続きや認定調査の調整とかコロナワクチンの名簿調整とか、市との関係は通達文書を始め様々な指導を含め連携を図っている。	コロナ禍での予防接種実施や感染対策の補助金申請事務等、通常の介護保険事務以外でも市役所担当部署との連絡や事務手続の照会等で協力をいただいている。ご家族が遠隔地居住の要介護認定申請の代行手続きで総合支所に出向く以外は、本庁に出向いており、相互とも顔の見える関係が構築されている。今年度は来所していないが介護相談員の来所や生活保護利用者がいる場合の担当者との連絡等も行われている。市の防災ラジオも設置されている。運営推進会議には、胆沢支所職員が委員として参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、定期的に委員会を開催したり職員研修でも取り上げ、実技や移動研修等を交えて全職員の意識改革と知識の徹底を図りながら、実践に活かして居る。介護ロボットの眠スキャンも活用しながら、事前の気付きを促しながら取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会は委員を職員とし、予定期日以外にも、ヒヤリハットや事故発生直後に開催し、年4、5回は開催している。また職員研修も年2回は実施している。介護事故、事件の新聞記事をその都度活用し、職員の理解や意識啓発を図っている。玄関の施錠は夜間帯を原則としているが、新規入居者の帰宅願望が落ち着くまで止むを得ず施錠することもある。2ユニットとなり、新規の職員も抱えている中、所長は「眠りスキャン」の有効活用も課題とする。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者は新聞の切り抜きやテレビニュース等、虐待やそれに近いニュース等を職場で開示し、職員の件分の広がりや刺激したり、共に考えたりしている。職員のメンタル面など中々難しい面もあるが、共に学ぶを心掛け迷いや悩みに即対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「岩手県身体拘束ゼロ作戦」を振り返りと原点の再学習として研修している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・ご家族の様々な生活環境や条件に合わせ、都合の良い機会と時間を調整しながら説明している。直接お会いして説明することにより、納得頂き不安や疑問が即解決できる。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いさわ (ほたる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱・運営委員会参加・おれんじ通信・面会・通院時の付き添い等々で、その時々を捉え意向を承る姿勢で接している。第三者委員会の設置もある事をお知らせしている。	事業所の運営に関してご家族からの意見が出されることは殆んどなく、季節の変化に伴う衣類や寝具の整理等の利用者への個別要望がある。毎月送付している「おれんじ通信」は、利用者の日常生活や活動の様子に説明とカラー写真が添えられ、家族からは好評を得ており、下欄には、家族の意見・要望をいつでも承る旨を付記している。運営推進会議に参加していただく家族は、検討議題に添った話題提供の出来る方に依頼している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議・職員会議(書く各1/月)にオーナー参加の折、施設備品や環境の整備、職員厚生事業等の充実を要求するばかりで無く協力的に話し合い実現している。	両ユニット合同で開催される毎月の職員会議には、毎回代表者も出席し、夜勤等の欠席者は会議記録で内容を確認している。利用者の申し送りと対応を検討する朝ミーティングは、10～15分の時間をかけ行われており、職員間のコミュニケーションを図る機会ともなっている。コロナ対策補助金での必要物品の要望や、2ユニット体制となり隔日でユニット毎の入浴日の設定、買い物等の時間変更等の提案がなされ具体化している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労基法改正に伴う就業規則の見直しや、年1回の人事考課、また職員の健康診断、大腸菌検査、この他にもコロナ予防対策への積極的な関わり等、労働環境整備に協力的である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や外部研修参加等、内外問わず参加できるように配慮いただいている。オーナー自ら防火管理者の認定講習に参加し、防災について職員と共に受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設との交流は以前は盛んに行われていたが、コロナ予防で昨年今年と休止している。他施設との交流は、心地良い緊張感と盛り上げの期待感で準備の段階から利用者はもとより職員に気合が入る場である。		

事業所名 : グループホーム いさわ (ほたる)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階では、施設内を利用者の呼吸に合わせ気の済むまで見て回り、その機会にトイレの使い方、お風呂場と脱衣場、お部屋や荷物の置き場所を繰り返し説明して回る。2日程係るが安心感は強く、落ち着いて頂いている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初日に徹底した聴き取の姿勢で接している。質問にもその場で答えるようにしている。また、利用者・家族の会話から情報を収集したり、居宅介護支援事業所から情報提供も頂いたりしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族からの聞き取りは勿論ですが、以前に利用していたサービス事業所からも情報の提供を頂いたりしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ほたるユニットは、全員が同時期に入所された利用者様で結束力も強く、全員が自室に籠る事が少ない様子で、広告紙でゴミ箱を作ったり、会話を楽しんだり、歌謡曲を歌ったりと、得手に帆を挙げて良い関係性を保っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	基本的にご本人を支える為の役割の明確化を図ると共に、お互いの情報を共有し、連携して行くことが望ましいと考え実行している。			

事業所名 : グループホーム いさわ (ほたる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所1年未満だが、コロナ禍で馴染みの関係が遮断された気分で過ごされていると感じられるが、電話や手紙での交流支援を継続的に支援している。	事業所独自のアセスメント様式等により、利用者の生活歴を把握しているが、開設時からの「いさわ」入居者は7年目となり、兄弟親族も高齢化し親族も減少傾向にある中、コロナ禍での面会制限等もあり、関係性の継続が年々難しくなっている。ガラス越しでの面会では、筆談での会話等を行い、利用者が書いた書面をご家族に手渡しする等の細やかな配慮をしている。また、届いたハガキへの返事の代筆等の支援も行っている。訪問診療は11名が利用し、床屋も2カ月に1回と、事業所に来所する医師や理容師も馴染みの人となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でも個人を個人として理解し合うことが大事だと考え、その機会としてゲーム、運動レク、誕生会、輪投げ等、声掛けや励ましで実際は思い通りに行かないもどかしさを共有し、共に慰め合い支え合う心の支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前にご一緒していた利用者さんのご家族が、通り掛りに立寄り、「懐かしい。よかったあー。」と何度も繰り返し仰っていらした。利用者様方も「あんまり早やがったなあー。」とお互いに懐かしがっていた。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の気持ちを気兼ねなく表出する方は少ない。その反面他人の話に聞き耳を立てる事が好きで、後は会話も無く黙っている人が多い。もう少し時間が必要と感じている。	両ユニットとも、レベルの違いはあるものの、利用者との意思疎通は図れている。「いさわ」入居の2名は、その日の体調により意思表示の波があるため、体調や気分が良い時に確認する様に努めている。入居時の暮らし方の希望や思いについては、家族と一緒に確認し、その情報はアセスメント表等に網羅されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用当初に聴き取りをしてから、関わるご家族も同一人が多く、新しい情報が取得不能状態にある。ゆっくりと取り組みたいと考えている。		

事業所名 : グループホーム いさわ (ほたる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課表の無い暮らしを掲げ、思いや気持ちを大切に、利用者の呼吸に合わせて支援する事を心掛けながら把握している。変化があった時は、申し送りと支援経過記録に残して情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の生活観察と思いをアセスメントし、担当者会議でケア内容を話し合うなど一連の経緯で作成している。心身の状態の変化に伴い、ご家族と話し合い計画の見直しを図っている。	入居間もない利用者の暫定介護計画は、1ヵ月で作成し、その後状態に応じて3~6ヵ月毎の見直しを行っている。利用者の生活歴や職歴、趣味、嗜好、こだわり等はアセスメント表に網羅し、必要に応じ活用している。利用者と家族の意向確認とサービス提供内容がしっかりと明記され、介護計画書は丁寧に作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護ロボットの活用、日常の観察記録等で気づきや新しい課題の提案等、ミーティングで情報の周知徹底を図っている。これ等の支援経過記録は計画の見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者には毎日コロナのニュースを情報として渡し、事業所自体も閉塞感満載の中での生活支援は、一見不自由に感じられたが、利用者間には職員との家族意識が強まり、コロナ感染予防意識も上がり、抵抗無く協力的に行動頂いた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年の場合は動けば不安が付きまとい、理容・食材の買出し・福祉レンタル・在宅酸素・通院、市立図書館等最小限の活用に留まった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医を継続頂きながら、支援している。かかりつけ病院とは適宜情報提供等、連携を図りながら在宅医療を支援して頂いている。	入居後も、入居前からのかかりつけ医に、家族対応で受診していただいている。受診の際、家族からの希望がある場合には、利用者の「体温、睡眠状態、食事摂取量」等を記載した情報提供書を準備し、スムーズな診察の一助としている。協力医療機関の医師による訪問診療利用者は、両ユニットで11名。最近、入居が契機となり、水沢の脳神経外科の医師の訪問診療も始まった。皮膚科や眼科の専門医への受診も家族としている。	

事業所名 : グループホーム いさわ (ほたる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師の週1回巡回訪問を受けており、一週間分の利用者経過情報と新しい課題等の相談や対処方法等、細やかな助言や指導の下、健康管理に役立てている。この他にも看取り時の緊急時対応等、連携を密に支援頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退所時には、必要に応じた情報提供を家族了解のもとに提供している。また実際に病院に outgoing 入院中の状態について医療連携室を通じ情報提供頂いたり、良好な関係が築かれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	居宅療養管理指導や医療連携看護師等の連携のもと看取りを経験している。在宅の看取り支援として、ご家族より相談される事もある。ご本人やご家族に満足いただけるように誠心誠意の看取り支援を目指したい。	開所時から10名以上の看取り支援を行い、今年度は「いさわ」で2名の方の看取りを行った。終末期の夜勤時には、夜勤者に加え所長も出勤し、複数体制での看取りを行っている。また、コロナ禍であるため厳重な感染対策の下で家族への最大限の配慮と対応を行い、感謝の言葉をいただいている。少し落ち着いた時期に看取り介護の振り返りを行い、職員の慰労と対応力向上に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時には、連携先の医療機関・訪問看護師の指示を厳守し対応している。AEDの操作研修等も消防署への移動研修を予定していたが、今年は中止した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所独自の防災計画書を作成し、地域の防災協力者の選任と協力を頂いている。避難訓練は通報招集訓練とし、実施済み。防災設備の点検と災害備蓄品の点検等は年1回実施している。	ハザードマップ上、土砂水害の心配はなく、キッチンもIH対応となっており、主に地震を想定した訓練を行っている。非常招集訓練は定期的に行っているものの、一層の強化が必要との認識を持っている。職員その他、非常駆付け協力者として、近隣住民3名にお願いしている。2ユニットに増設され、経験不足の職員もあり、特に夜間や降雪時の避難路の除雪対応と停電を想定した訓練、必要備品の確保を所長は認識している。	定期的なミニ訓練や非常招集訓練は、ユニット毎や全体での実施、季節毎や夜間想定等、全職員が複数回経験出来るように励行されることが望まれます。特に停電時の必要物品(発電機、避難路の足元等)については、早急に確保し不足する追加物品の手当も必要と考えます。

事業所名 : グループホーム いさわ (ほたる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一日の始まりは、職員からの元気な挨拶から始まり毎日の申し送り時に、介護の振り返りや利用者個々の様子など細かに情報の共有を図り接している。生活面の会話や排泄時の接し方等、チームとして声を掛け合い注意しながら個人情報意識付けしている。	所長は、職員の精神面を含めた健康状態の把握に留意し、利用者支援の基本としている。朝の申し送りは細かく行い、全職員が情報を共有できるようにしている。居室入室時のノックや、空室への入室回避等は職員のマナーとして厳守し、入居時には、本人の名前の呼び方(名字又は名前)を確認している。入浴時の異性介助拒否者はいないが、羞恥心等への配慮には留意している。利用者に聞かれたくない職員間の情報交換は、洗濯室や脱衣場等を利用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	月毎の予定表を渡したり、考える時間を作ったり習慣化した事でも選択肢を設けたり、意思決定をもつように支援している。難聴の利用者やその他適宜にホワイトボード利用や筆談で対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活全般(起床から就寝まで)を見守りながら気分や体調に合わせ、寄ったり離れたりしながら其々に想い通りの生活になるよう安全な環境に配慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じ衣服を何日も着用したい利用者が増えて居るように感じる。拘りが強く洗濯しても待ち時間が無い方も居られる。拘りの服は気持ちが落ち着くと話している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	飽くまで感動は控え目で、季節満載の食事は楽しみの一つと成って居る。一緒に台所に立つのも楽しみで、野菜の下拵えやお味見、食後の食器洗い等、役割として楽しく関わっている。	箸、茶碗は自宅から持参し使用している。野菜の皮むき、下拵え、食器拭き、食器洗いを個々の生活動作の力に応じて行っている。3食とも手作りで提供される食事は、栄養士、調理師資格のある職員が主に作り、食後「美味しかった～」との声があった後に下膳されている。ひつまみや団子等も日常的に提供されている。毎月のレク食では、流しそうめん、団子作り等が企画されている。今年再開した敬老会には刺身を提供し、誕生日には、夕食に誕生者がケーキをいただき特別な日と感じられるよう工夫している。重度化してきた利用者の食事形態にも留意し、家族からも感謝されている。生活習慣病が改善されている利用者もいる。	

事業所名 : グループホーム いさわ (ほたる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が介護職員と一体となり声掛けしながら、リーダーとして取り組んで居る。食事の摂取量が低下している利用者様には、間食の工夫や補食の提供で利用者のニーズに合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方から全介助の方まで、個別にきめ細かなケアを毎食後に実施しており、口腔のトラブルも無く過ごされている。この他うがいはイソジン液や季節によってお茶等、感染予防にも努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は、毎日ミーティングで排泄回数や量の変化等、情報を共有しながら改善や工夫など必要時に自立支援に向けた排泄支援を行っている。	それぞれの心身の状態に応じて尿意や排尿間隔に合わせてトイレでの排泄支援を心がけている。「いさわ」の要介護5の2名は、昼夜ともオムツを使用している。両ユニットともに居室でのポータブルトイレ使用者はなく、出来るだけ失敗を少なく、それぞれの状態に応じた手助けによる排泄の支援に努めている。入居後、リハビリパンツ使用から、パット使用の布パンツ利用に改善した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給は細目に行っている。利用者の好みに応じた支援を実施している。また食材の工夫や運動機能の確保等、体調を見ながら自然排便の促しに努力している。体質により難しい方には、医療連携で下剤処方等の対応もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は今のところ拒否される方は無く、皆さん楽しそうに入浴されている。	入浴は、利用者の身体状態に合わせて複数の職員で対応するなどの工夫をしている。希望があれば毎日入浴できるが、入浴後の疲労感もあり週2回利用に落ち着いている。入浴剤で、温泉旅行の思い出話につながったり、ゆず湯や菖蒲湯で季節感を味わう工夫もしている。午前中に入浴する利用者からは「朝から気分がいい」との声も聞かれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の中で昼食後の養護は利用者にとって体調をリセットする機会と捉え、勧めている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いさわ (ほたる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬処方箋はファイル添付し、理解に努めている。処方薬が変わった場合は、訪問看護師に内容を伝え指導を受けながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節行事や誕生会、敬老会等コロナ感染予防に配慮しながら最大限できる事の支援に努めた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ウッドデッキでの茶会や前庭に出てラジオ体操や軽散歩等、気分転換が図れるよう支援に努めた。	コロナ禍で、週2回の買い物同行は自粛しているが、事業所周辺の散歩には、「いさわ」では1人、「ほたる」では3人程が天気の良い日に15分程度出かけている。両ユニットそれぞれにウッドデッキがあり、自由に出入りができ、重度者も含め外気浴を兼ねたお茶会も行っている。今秋には、紅葉狩りのドライブを予定している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からかかってきた電話には笑顔で対応されている。手紙や葉書への返信は、億劫がりその気になるのに数日を要するが、「字が書けなくなった。」とボヤキながら意欲を大切に支援している。		

事業所名 : グループホーム いさわ (ほたる)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いさわ棟と類似した施設なので、明るく天井からの採光も心を癒してくれる。利用者は自室に籠る方は殆ど無く皆さんの居場所である居間に自然に集まり、時にはデッキにてお茶会を催すなど思い思いに過ごしている。	殆どの利用者が日中過ごしているホールは、平屋でも天井が高く採光も良好で、壁も白色系で明るくゆったりとした印象である。広いホールには食卓、椅子、大きく清潔なソファ、テレビが配置され、清潔感がある。一人でゆっくり過ごしたい方には和室で小上がりのスペースもあり、ゆっくり穏やかな時間の流れを感じられる空間である。両ユニットとも自由に入り出出来るウッドデッキがあり、朝夕には、自転車で登下校する中学生を窓から見る事が出来る。壁の掲示板には、季節々の飾りが展示され、事務室カウンターには日めくりのカレンダーも置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は食事席が指定席になり、そこがご自分の安らぎの大きい場所と成って居る。施設を訪問する方の顔も見え、一層の安らぎの場所と成って居る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に思い入れのある物等の持ち込みを勧めているが、全体的には少ない。衣服への拘りが強い方、反面無頓着な方、夫々が相和している。	居室、ホールともに床暖房となっており、各居室にはエアコン、ベッド、引出し式クローゼット、床頭台が設置されている。両ユニットともに、使い慣れた馴染みの日用品を持ち込んでいる利用者は比較的少ない。壁に家族写真を沢山貼っている居室、自分で書いた絵や書を貼っている居室等がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心と安全に配慮しながら、行動制限無く、二棟を自由に往来可能にしている。		